とちぎ農産物クチコミ隊

とちぎで収穫体験したよ。

平成16年7月3日（土）

とちぎ農産物クチコミ隊 トマト収穫体験 ＩＮかみつが

みんなで記念撮影。本当に暑い日でしたが、みんな元気で疲れたようすの子は１人もいませんでした。パパたちも、朝5時頃から運転してきたのに、畑とふれあって、「いい汗流しました」と気分爽快。終了後は直売所の野菜をいっぱい買い込んで解散しました。お米を買う人、キュウリを買う人、やっぱり栃木のお土産は、農産物が一番ですね。

お世話になったトマト生産者の宇賀神さん。「みんなよろこんでくれてうれしいな。これから苗を全部抜いて、また次のトマトの準備です」

選果場でトマトがどのように箱詰めされるかを体験しました。実際に自分のところへトマトが転がって来て、子供たちは大喜び。

7月3日土曜日の午前9時、栃木県上都賀のＪＡかみつが南部営農経済センターに、東京・神奈川ナンバーの車がぞくぞくと到着。

このセンターには、生産者が毎日トマトを持ち込んで、大きさごとに箱詰めする大きな選果場があります。土曜日でお休みなのに、今回特別に見せてもらいました。見学後、トマト農家の宇賀神さんのハウスへ移動。１００ｍもあるハウスの中に、大きな苗がぎっしり。最後の収穫とは思えないほどまだまだトマトがたくさん実っていました。とりたてのトマトにまずはガブリ。「天気に左右されたり、病気におかされたり、野菜を安定して作るのは大変ですね。実際に見るとよく分かります」と隊員。

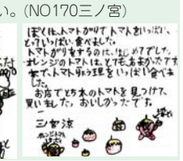
袋が配られると暑さも忘れ、気持ちはもうトマトハウスの中。隊員にはお手紙で、「最後なので、ジャングルのようです」と伝えていたのですが、宇賀神さんが苗をきれいにしてくれていました

子供たちは、赤いのを見つけてはパクパク。

オレンジのトマトの甘さにみんなビックリ！

トマトの収穫が終わり、次は苗のかたづけをお手伝い。「茎のもとを持ってお父さんと一所懸命抜いて見て」と宇賀神さん。「もう終了で～す」といわれても、やめる気配がないほど真剣にみんな抜いていました。「農家さんは大変だ～。これは腰にくるね～」と頑張りすぎのお父さんも

トマト畑での摘み取りや、根っこ掘りはもちろん初めてで、トマトを満喫させて頂きました。帰りは直売所でたくさんお土産を買い、お昼は野尻の「華」と言うところで、野菜づくしと「そば団子汁」を。おいしかったで～す。帰りはこども科学館によりましたが、一泊にすれば良かったと後悔しました。最近、栃木通になり？、スーパーへ行っては「にのみや産のトマトだ」「栃木米だ」「はがのクワガタ虫」と、地名をつけて言う親子になっております。皆さまにくれぐれもよろしくお伝え下さい。（NO170三ノ宮）



娘、綾香はトマトが嫌いだったのが、「栃木のトマトはあま～い！！」と言って、食べれるようになりました。明宏は、今まで以上に、トマトが大好きになって、幼稚園のお弁当にもしばらくの間、トマトをいれていました。そして、「幼稚園の先生にも、食べてもらうんだ」と言って、幼稚園にもとちぎのトマトを持っていきました。もちろん、近所の友達にも10件以上、とちぎの取れたてトマトをおすそわけしましたヨ。家に着くまでにつぶれてしまったトマトは、母が全部湯むきしてトマトソースを作ってくれました。そのトマトソースを使って、ミートソース、チキンを煮込んだり、カレーに入れたり…本当においしくいただきました。トマト収穫の後は「ろまんちっく村」に行って、プール、露天風呂と楽しんできました。またぜひ参加したいです。（NO150 倉元）

とっても楽しかったよ。

イチゴサンクスデー
平成16年5月22日（土）

とちぎ農産物クチコミ隊 イチゴ収穫体験 ＩＮにのみや

「よ～いスタート」でいっせいにハウスの中へ。次々とハウスを移りながらたくさん摘んだよ。

イチゴの採り方を教わったら後、一人１箱もらって、さあイチゴ収穫体験のスタートです！

「隊員になってから、家族全員がとちぎファンなんです」という、相模原から来てくれたNO13の榊有紀子・千絵隊員家族。特にパパは「勉強になったな～」と感動。「生産者のお話が勉強になり、片道３時間かけても参加した価値が十分にありました。ありがとうございました」と話してくれました。

こんなにいっぱい採れました

収穫体験の後、野口さんがイチゴの選別や包装のしかたを丁寧に説明してくれました。イチゴ１パックが300gって知っていましたか？ 野口さんたち農家さんは、毎日、朝早くにイチゴを収穫したあと、いったん冷蔵庫に冷やして（その間に朝食を取ります）、その後丁寧にパック詰めをします。野口さんが大きさを選びながら手早く１パックを作ると、それがなんと、300gぴったり。「さすがプロの仕事」と、みんなから拍手喝采でした。できたパックはローラーにのせられ、きれいにフイルムがかぶせられ完成。とっても傷みやすくて繊細なイチゴだけに、人の手ができるだけ触れないよう考えられています。野口さんのお話から、商品化されるまでの農家さんの苦労がヒシと伝わり、大人はみんな感動！でした。

５月22日土曜日の午前９時、「道の駅にのみや」に集合。少し肌寒い一日でしたがちびっ子は、寒さなんか関係ない！「みんな、集合して～。さあ、お話しがはじまりますよ～」という声をよそに、おいしい空気をお腹いっぱい吸いながら、みんな走り回ってすぐ楽しそう。

ここで「ＪＡにのみや」のみなさんに、全国1位の「とちおとめ」について説明をして頂き、そこからイチゴ生産者・野口さんが待っているイチゴハウスまで長い車列をつくって移動。「こんなハウス見たことがない！」というほど大きなハウスを前に、みんなワクワクでした。

栃木県芳賀郡二宮町でイチゴを作っている農家、野口さんにお世話になりました。大きなイチゴハウス12棟を開放してくれました

5月22日、いつもなら登園時刻20分前に起きてくることも多い長男が、この日は５時よりも前に自分から起きてきました。６時に自宅を出発。首都高の混雑に、遅刻かもと焦りながらも、無事、にのみやに到着しました。農家の方からのお話しなんて、テレビでなんとなくでしか耳にしたことなかった私たちは、興味深かったです。さていよいよイチゴとご対面。収穫前に農家さんが「期待しないで」、なんておっしゃるからどうなんだろうって不安だったのに、それはみずみずしく、甘くって、次男は嬉しくってしょうがない様子で、たらふく食べていました。昨日も今日も「いちごちょうだい」ばかり。でもまだたくさんあります。ジャムになんて未だもったいないわ。

「遠路はるばる」でしたが、ほんとに楽しい日帰り旅行でした。今回は寒くって、真岡鉄道を待ってられずに帰ってきました。残念でした。今度は２．３日泊りがけで来てみたいです。帰りに地場産の野菜をたくさん買って帰りました。今日のメニューは色とりどりのお野菜たっぷりで、おいしく頂きました。楽しかった思い出として、子供たちも親戚に電話をして報告をしていました。ウチは関西出身で、正直言って、栃木は未知の県。どこにあるのかもよく知らず、主人は茨城との区別もよくついてませんでしたが、今回の収穫体験に参加したことで、かなり反省していました。これからはかなり「栃木」を意識した生活をさせて頂きますね。どうもありがとうございました。（NO100　山本　紀子・慧）